

# Fairy Heritage I

Webで公開されていない代表的なフェアリー資産の紹介と公開。  
編集担当者の言葉をもって各誌紹介に代える。

2019年8月28日 神無太郎

## 詰将棋パラダイス (ばか詰教室～フェアリー詰将棋研究室～フェアリーランド)

---

編集：花沢正純、門脇芳桂、加藤徹、筒見香平、小林看空、Dr.ドラゴン、安永玲、菊田裕司、石黒誠一、  
筒井浩実、片岩裕貴  
開設：1971年11月

### ばか詰教室／花沢正純 1971年11月 (第190号)

---

～前略～

「ばか詰」なんてばかばかしいという人もあるでしょう。

しかし「ばか詰」には心臓のウラを羽毛でくすぐるような妙に乙なところがあり、まんざら捨てたものでもない。

某ベテランに本欄の担当を編集部から依頼していたが、家庭の都合(?)で辞退されたいので、おっちょこちよいの私がしゃしゃり出て、担当をさせて頂くことになった次第。

「ばか詰」は要領さえわかれば、誰にも容易に創作・解答できるので、どしどし“斬新”な問題を寄せて下さい。大いに研究して、新題の発掘に努めたい。本欄の運営についても意見を寄せて下さい。

～後略～

### ばか詰教室／門脇芳桂 1974年6月 (第221号)

---

花沢名教諭の後をついで私が本教室を担当することになりました。「物好きな」と云われた方もありますが、私は本教室が大好きで、はり切って就任した次第です。楽しい教室に行きたいと思いますので、従来通り奮って投稿、寄稿を御願ひ致します。

### ばか詰教室／門脇芳桂 1974年7月 (第222号)

---

#### ばか詰のルール

- (1)攻方は最善(最短)を、玉方は最悪(最短)を尽くして玉を詰め上げること。他は詰将棋のルールと同じ。
- (2)最短手数のみが正解で、長手数余詰は不正解。従って、長手数余詰があっても不完全ではない。

#### ばか詰の意義

ばか詰とは何でしょうか。色々と考えて見ました。

ことの起こりが「冗談問題」であったことは事実です。本誌昭和36年8月号に、S・おぎの氏が裸玉に持駒歩二枚とか、角一枚など数題のユーモア問題を発表し、「ばか詰」と命名されたのが発端です。このひょうきんさが意外に受けて、同様の問題が各氏からポツリポツリ発表される様になりました。私はこのユーモア性は「ばか詰」の一大特長で、いつまでも失ってはならないものだと思います。

所で、本誌昭和45年6月号に突然加藤徹氏の百71手詰作品と花沢正純氏の短手数妙手型馬鹿詰が発表され、俄然ばか詰に対する認識が変わって来ました。その後、本教室が開設され、森茂氏や鮎川哲郎氏などの傑作も登場して、ばか詰は一流作家が腕前と才能を競う新しい創作分野となった様です。今やばか詰は単なる冗談問題ではありません。

私は次のように宣言したいと思います。

「ばか詰」は詰将棋に新しいルールを付与した、ユーモアと美と新しい可能性を表現する「幻術的パズル」である

「ばか詰」には、駒数が少なく短手数探しの「ユーモア問題」、駒数が多く手数の短い「妙手探し問題」、中手数の「難解問題」、長手数の「趣向的パズル問題」、超長手数の「記録問題」など色々の分野が開拓されました。後の方が秀れて見えることは事実ですが、私は何れも重要な分野と思います。尚「自殺詰」「マキシ詰」その他変則的詰将棋も投稿があれば取上げて行きたいと思っています。

#### 「前衛賞」の設定

「前衛賞」(仮称)を設定し、ばか詰関連変則問題(自殺詰など)の傑作を表彰したいと思います。半分私がスポンサーですが、他に協賛スポンサーを求めます。第一回は従来発表された作品も対象とし、来年一月号に発表します。数名の委員を決定し、委員会で推薦作の投票を行ない、授賞作の決定をしたいと考えていますが、色々御意見を御聞かせ下さい。

#### フェアリー詰将棋研究室／門脇芳桂 1974年8月(第223号)

世はフィーリングの時代。親しまれてきた「ばか詰教室」を「フェアリー詰将棋研究室」と改称することにしました。私が何人かの人にばか詰の創作や解答を勧めたら「バカ詰ですか」とバカにした様な拒絶反応にであい、どうやら「ばか詰」と云う名称にも原因がありそうに思われるからです。尚「ばか詰」や「自殺詰」などにシャレた新名称を募集します。初期のばか詰は、名称にふさわしいとぼけたひょうきんな作品が多かったのですが、最近では力作の出現により「ばか詰」のイメージとはかなり変わった筈です。最近の作品を含めて最も良い名前を考えて下さい。

尚、これからは内容を一層広げて、「自殺詰」や「マキシ詰」その他、新ルールの作品も投稿があれば取り上げて行きたいと思っています。

～後略～

#### フェアリー詰将棋研究室／加藤徹 1979年3月(第277号)

「よろしくね」とバサッと渡されたのが、ばか詰百局その他数十局。ちょっとびっくりしました。

毎月のように「在庫は長1短13。どんどん送れ」など書いてあったばか詰教室時代を思い出すと、感慨無量です。

さて、今月から、私が本研究室の担当をすることになりました。

ばか詰精神を発揮して、楽しいページを作っていきたいと思っていますので、従来通り奮って投稿、寄稿を御願い致します。

#### フェアリーランド／筒見香平 1980年7月(第293号)

☆ごあいさつ

前担当者、加藤氏が「カピタン」の編集に専念される事になり、そのあとを受ける事になりました。よろしく。このコーナーは「変則詰将棋」に関する事なら何でも扱います。特に初めての方は一度立ち寄って下さい。

☆れんらく

現在の手持在庫は、ばか詰19。天竺系29。安南系8。マキシ系10。自殺系12。玉以外を詰めるもの2。(除今月分)となっています。特に本コーナーのメインとなる「ばか詰」の新題を鶴首。

～後略～

#### フェアリーランド／小林看空 1983年1月(第323号)

謹賀新年。57年まで担当の筒見香平氏にかわって、私が担当することとなりました。よろしくお願ひいたします。フェアリーの原点は、ばか詰であると考えますので、まずはばか詰から。

～後略～

●おわび

担当の引きつぎミスにより、一ヵ月、当コーナーを休載した事をおわびします。と言うのも、2月号の担当募集に対して、一人も応募が無くて、休載をせざるを得ませんでした。担当募集をもっと早めに行っておれば、誌面に「穴」があく事はなかったと思います。私が引き継ぎを行う時は、このようなミスはいたしません。

●当コーナーの担当

フェアリーランドの担当は確かに、難しいです。詰棋校の担当なら××でもできますが、当コーナーは、業界用語で言う「スペシャリスト」でなければ、とても務まりません。仲々、後任が育たないのも無理はありません。

●募集

後任者を「育成」するため、当コーナーの結果稿のみの担当者を募集します。結果的に「二人担当」にして、徐々に「毎月の企画」「選題」「検討」も引きついで行こうと思います。この三つは「並」の人では難しいが、結果稿だけなら、誰にでもできます。私の個人的希望としては、かつてカピタンで「幻想カタログ」を連載された、泰永三二郎さんにぜひやってもらえたらな、と思っています（ご連絡お待ちしています）。もちろん他の人でもかまいません。さらに結果稿だけでなく、全体の担当も、やりたい人がいたら、すぐにでも担当を引きつぐつもりです。

●増ページ！

フェアリーランドは来年から、選題と結果で計6ページとなる予定です。嬉しいですね。今迄の読みにくさも一掃されるでしょう。色々な催しも出来ます。この増ページで、前記の「二人担当」がぜひ共、必要となってきます。それにしても、おもわずやったね！ この増ページを有効に使うべく、いい企画やアイデアなどを担当へ送ってね。

第一回妖精賞制定

前衛賞消滅に伴い、今年新しく「妖精賞」を作ることになりました。

- ①対象は本誌発表の作品だけです。
- ②第一回は、今年のフェアリーランド発表作の中から選びます。
- ③来年3月号で解答者に推せん募集を行います。
- ④本賞は賞と言っても、賞品や賞金は一切ありません。誌上表彰だけです。その代り、各ルール、長編、短編、多部門にわたって表彰いたします。
- ⑤妖精賞は、前衛賞のようになくなる事はなく、本誌で永久に続きます。

フェアリーランド/安永玲 1989年7月 (第401号)

---

エッヘン。今月よりDr.ドラゴン氏に引続いてフェアリーランドの村長を勤めます安永です。初代担当者の花沢先生から数えて七代目です。ラッキー7といけるかな。作家の方々、解答者の方々、そして毎号楽しみに読んで下さるたくさんの方々の皆様よろしくご支援下さい。

【フェアリーQ&A】

Q：フェアリーランドって何？

A：普通とちょっと変わった詰将棋で遊ぶ「おとぎの国」です。

Q：どんなのがありますか？

A：定食コースとしては、ばか詰、ばか自殺詰。人気の点でこれに迫るのが安南詰、対鮮詰、天竺詰などの変身もの。その他にも変わったのがたくさんあります。

Q：面白そうですね。

A：その通り。おとぎの国では王様が魔法をかけられて歩に変身したり、将棋盤の両端がワープしてしまったり、蝗が飛び回ってみたりという異常なことが決して不思議なことではなくなるのです。

Q：フェアリーっていつから始まったのですか？

A：フェアリーという言葉が詰パラ上に登場したのが大体20年くらい！前です。安南詰などはもっと古いらしいですが…

Q：こんなことをやって一体何の役にたつのですか？

A：ウーン。絶句。

【FLの運営について】

この一年間解答者の生の声に接してきて、つくづく感じたのは、FLの捉え方は百人百色であるということ。

代表的な意見を三つ上げると、

- ①詰将棋に疲れた頭をしばし休めるオアシス。
- ②詰将棋の行き詰りを打開する前衛の道。
- ③ただヘンテコなことを考えるのが好き。

というわけで全ての人が満足する運営は不可能？ あまり新味が出せそうにありませんが、どっちつかずの路線を行くことになると思います。とはいえ面白い作品がすべて！ 作家陣を盛り立てる解答者のキビシクで暖かい批評が大切です。

【ニュース】

待ちに待った「カピタン」が再開される模様。詳しくは来月。

～後略～

#### フェアリーランド／菊田裕司 1991年7月（第425号）

---

今月から担当をやらせていただく菊田です。5月号では不詰と手数誤記という二大ミスをやってしまい、申し訳ありませんでした。

安永氏から百以上！の投稿作を引継ぎましたが、大量に返送して在庫は次のようになりました。（今月出題分を除く）ばか詰3、ばか自殺詰17、対面系7、安南系2、マドラシ系6、鏡系3、その他13、合計51作。

5月号の補足ですが、レベルアップということは難解化ということではありません。基本的には易しくて面白いハイレベルの作品（ぜいたく？）を中心に採る予定です。お楽しみに。

～後略～

#### フェアリーランド／石黒誠一 1994年4月（第457号）

---

菊田氏から引き継ぎが完了し、今月より選題稿も担当させていただきます。

前担当者に比べると流石にパワーダウンは否めませんが、出来る範囲で頑張っていきますので、御指導、御鞭撻を宜しくお願いします。幸い、筒井浩実氏が運営に協力してくださるとのことで、心強い限りです。

編集部からの要望で、一般読者にも理解出来るコーナーを目指していきます。楽しめる問題も適当に織りませっていきますので、実力者の方々にはご理解をお願いします。

新しいルールは、菊田氏の担当のあいだに大体導入されたので、私はあまり新しいことはしないつもりです。当面導入する予定があるのは、変則盤といくつかのフェアリー駒くらいです。

質問は積極的にとりあげていきますので、わからないことは解答の余白にでも書いてください。

それから、ばか詰は解くけど、ばか自殺詰は分からない、という人も多いようです。解答の無解者数からもそれが窺えます。ばか自殺詰については近いうちに特集を組んで、入門編からやっていきたいと思っています。

#### フェアリーランド／筒井浩実 1994年8月（第461号）

---

石黒君の退会及び担当辞任に際し、彼から後任を託された筒井浩実です。

～中略～

今月は安南です。

～後略～

#### フェアリーランド／片岩裕貴 2001年7月（第544号）

---

◇担当就任のごあいさつ

皆さん初めまして。今月号からフェアリーランドを担当することになりました片岩裕貴です。皆さん私のことをご存知ない方がほとんどだと思いますので簡単に自己紹介をします。

～中略～

京都大学将棋部のOBで、今年大学院に進みました。年齢が離れているので、すぐ社会人になってしまった穂上さん、菊田さん、山田さんとはあまり面識がありません。

今後のフェアリーランドの運営方針は、基本的に前任の路線を踏襲する形で行きたいと考えています。いまのところ、何か変えようということは考えていません。皆様のご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひします。

## カピタン

---

編集：加藤徹、服部敦

発行期間：1976年7月（第1号）～1996年3月（第51号）

### 創刊のこぼし／幻想棋人 1975年7月（第1号）

---

近年、現将研における変則将棋の研究、特に衝立将棋の発展はめざましいものがある。その当然の結果として、会員の間に、各棋戦の記録、いろいろな将棋の研究、創作されたフェアリー詰将棋の発表の場として、機関誌の発行を望む声が高まってきた。外に目を移せば、詰パラ誌でのフェアリー詰将棋研究室の定着など、今、変則将棋界は興隆期にあると言えよう。この時期に機関誌を発行することは、会員のみならず、広く同好の士との交流にも有益ならんと信じ、ここに「カピタン」第1号を送る。

### 復刊の辞／服部敦 1985年5月（第31号）

---

2年余り休刊となっていたカピタンを、加藤徹氏と組んで復刊させることになりました。よろしくお願ひいたします。

～中略～

本誌では、「詰××」と名のついたものすべてを扱います。ダブルダミー（詰ブリッジ）や、倉庫番（マイコン用パズルとして売られているが、グラフ用紙と紙と鉛筆を使えば出来る。詰物そっくりの芸術性がある）などもかまいません。ただ、見なれないものについてはルールを解説してもらわないと読者が困る事になります。

どんどん寄稿して下さい。詰モノはもちろん、変則将棋の実戦譜とか、パズルとか、幅広い記事があった方が紙面が盛り上ります。

～後略～

## 将棋パズル

---

編集：田宮克哉、服部敦、中島和男

発行期間：～1978年4月（第34号）～1990年6月（第71号）

### 前口上／中島和男 1983年11月（第51号）

---

- ・本号より、司会者が交替することになりました。前任の名司会者と違って、皆様が黙っておられたのでは、とても間を持たせることができません。どうか積極的な参加をお願いします。
- ・今後の方針は、基本的には田宮さんの方法を変更しないでそのまま続けるつもりです。つまり、投稿作品の種類、解答者の得点などは従来通りです。但し採点方法がバビリオン毎に少しずつ違っているようであり、余詰の場合の処置にも疑問がありますので、統一したいと思います（後に述べます）。それと次号を受取るための規定を定めました。次ページにある通りです。従って切手などを送って頂いても何の効果もないと思って下さい。

～中略～

「将棋パズル」を受取るための規定

- ・ n号を受取った時、n+1号を受取るためには、n号について何らかの「反応」を示さなくてはならない。
- ・「反応」には次の各種目がある。

1. 作品投稿

A式安南詰将棋、打歩詰将棋、ふりかわり詰将棋、王様の仇討、京都銀閣詰将棋、オセロ詰将棋、…etc、の他誌で扱っていない詰物、及び新作将棋パズル（手順を求めるタイプに限る。例えば玉の位置さがしなどは不可。）の作品の投稿。一種一コーナーとし、各コーナー二作以上四作以内。但し配置が広がっていないければ、5手詰ばかりなら六作まで、3手詰ばかりなら九作まで可。結果稿作成の義務あり。

2. 解答

各館に展示されている作品の解答を作者あてに送る。コーナー毎に別紙として、それぞれに氏名と何号の作品かを明記する。裏は使わないこと。

3. 意見

誌上で議論されている問題についての意見、ルールに関する問題提起、その他コメント、及びそれらに対する反論、それに対する反論、それに対する…。

4. 感想

n号を見ての感想何でも。但し作品の感想のみを作者あてに送った場合は白紙解答とみなす（これも当然「反応」です）。

5. その他

「研究発表」、「研究発表」、etc。

～後略～

## 将

編集：服部敦

発行期間：1988年3月（第1号）～1996年3月（第80号）

### こんな雑誌にしたいのです／服部敦 1988年3月（第1号）

私はミニコミ誌が好きです。今でも3つ加盟しています。ごぞんじ森田正司氏の「詰研会報」、中島和男氏のフェアリー誌「将棋パズル」、それに岡部雄二氏の「詰恋会会報」です。そうして一つ編集しています。なかなか発行されず（困ったもんだ）、幻の雑誌として定評のある（今度出るよ）フェアリー誌の「カピタン」です。

以前はもっとたくさんミニコミ誌がありました。「詰棋の詩」・「春棋会会報」・「申棋会報」。私の知っている限りはこの三つですが、他にも色々なものがあつたようです。詰棋の詩は、岐阜の深津兄弟が始めました。この二人、「中央」には知られていませんでしたが、大変な熱心家で、多くの作品を誌上に発表していました。創刊号からの会員に伊藤正氏と有吉弘敏氏がいました。そして山本昭一氏が加わり、程なく編集長となります。春棋会の始まりは判りません。が、私が加盟した頃には柳原裕司クン（もちろん今のパラ編集長その人です）が中心になって発行していました。その後を引き継いだ、短編と曲詰の名手、西沢重男クンは今はどうしているでしょうか。この春棋会を作品で盛り上げたのが前の二人と飯田繁和氏です。

この二つの雑誌で、多くの若手が成長していきました。いや、こんな表現はナマぬるいでしょう。両誌とも看寿賞作家を世に送り出しています。塚田賞作家や半期賞作家はもちろんです。そうして春棋会は、最後まで家庭的な雰囲気を失わずにいました。詰棋の詩は、若手が思い切った発言をできる唯一の場でした。もうひとつの「申棋会報」、これは昭和31年生まれ詰将棋作家だけで結成された、「申棋会」会員のためだけの連絡誌として、柳田明氏が創刊したものです。しかし、これもすぐに多数の愛読者がつきました。会員各氏の随筆がすばらしく面白かったからです。

三誌とも今は発行を止めています。30年代作家の青春が終わりを告げたのと同時に、燃えつきってしまったのかも知れません。

本誌がどんな雑誌になるかはまだ判りません。内容は読者の貴方たちが何を好むかにかかっています。しかしこれだけは約束します。決して廃刊はしません。長く長く続けていきます。若かった読者が、社会に出て、結婚

して、創作を止め、子供ができて、子供が大きくなって手がかからなくなったので、また創作を再開しましたという便りを送ってくれる。それを全部見守っている、そんな雑誌になったら、素晴らしいと思います。

## Online Fairy Mate

---

編集：神無太郎、神無右京、神無三郎

発行期間：1994年2月（第1号）～2006年6月（第235号）

### OFM創刊／神無太郎 1994年2月（第1号）

---

フェアリー詰将棋創作支援プログラムである f m がパソコンでも動くようになってから2年が経とうとしていますが、f m の進化は、いまだ止まるところを知りません。

作者が（元？）職業プログラマーであるとか、利用者が異様に熱狂的であるとか、そういった理由もあるのですが、f m のこの進化の速さと持続には、パソコン通信による準リアルタイムな意見交換が重要な役割を果たしていることは間違いないでしょう。

それで考えました。『フェアリー詰将棋創作』にパソコン通信を利用しない手はないと。反応の速さは創作の強力な触媒そのものです。

で、このOFM創刊号となったわけです。

OFMでは何も特別なことをしよう、というのではありません。普通の詰将棋のミニコミ誌でやっているようなことを、パソコン通信を利用してやってみようというだけです。

本号は出題／解答／読み物の伝統的な三部構成ですが、反応の速さが新しいスタイルを要求するかもしれません。

～後略～

### 後記／神無右京 1997年1月（第94号）

---

復刊しました。とにかくスペースを提供し続けることが重要と思いますので当面、投稿があってもなくても2週間に1回発行します。

（2回連続投稿がなければタイトルと後記だけ、という号もありうる）

太郎さんのような創作力ががないので、自前で作品を提供し続けることも難しいですが、よろしくお付き合いください。

軌道に乗れば、将棋パズルと相互乗り入れの形で進めたいと考えています。

～後略～

### 後記／神無三郎 1999年2月（第122号）

---

何とか o f m 再開することになりました。今度、三郎が担当します。

肩を張らず、半ば気まぐれ不定期に発刊していこうと思いますので、よろしく。

少なくとも次号の作品は用意してありますのでご安心を。

それでも、どんどん投稿を。すぐ載ります！

ふと気がついたのですが、本日は奇しくも5年前の o f m 創刊日！

